（報告書様式Ｃ）

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	愛　知　県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	名古屋市立港楽小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	職員数
学級数	２	２	３	２	２	３	２	１６	３０
児童数	５４	７８	８１	７８	７１	９９	３	４６４	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

確かな学力をはぐくむ指導のあり方
－基礎・基本を重視した指導を通して－

２．研究内容と方法

（１）実施学年・教科

学年	教科（週時間数）	形態	集団（学級枠はずす）	集団数
1	国語（８）・算数（３）	少人数	学級数＋１	3
2	国語（８）・算数（４）	少人数	学級数＋１	3
3	国語（６）・算数（４）	少人数	学級数＋１	4
4	国語（６）・算数（４）	少人数	学級数＋１	3
5	算数（４）	教科担任制	学級２分割	2
6	算数（４）	少人数	学級数＋１	4

・　１年～６年・算数

子どもの理解度に差がでやすい教科であるため，全学年［学級数＋１］の集団による習熟度別少人数指導を行い，基礎・基本の定着を図る。

・　１年～４年・国語

基礎的な内容が多い１年～４年の国語では，［学級数＋１］の集団による習熟度別少人数指導を行い，高学年での基礎・基本定着への橋渡しをする。

・　５年・算数（教科担任制）

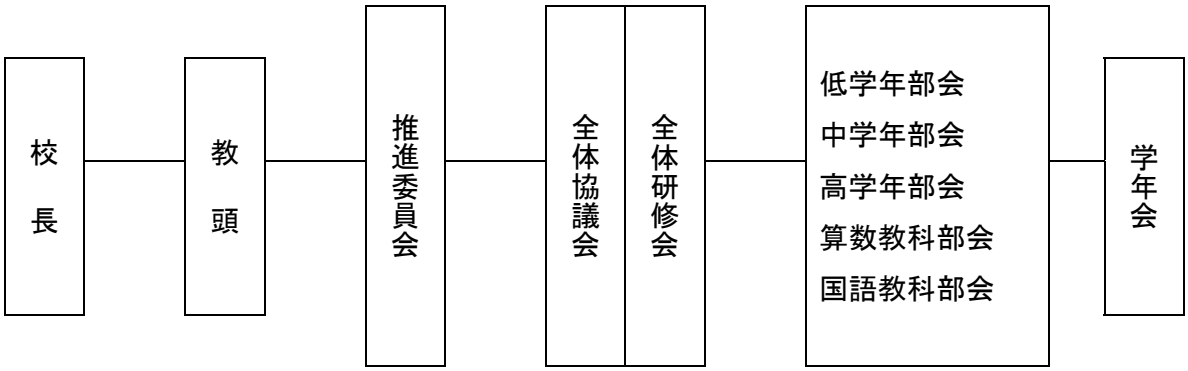
主として算数と社会・図工の組み合わせにより，１人の教師が学年の２学級を指導する。算数では，１学級を２つの学習集団（２教室）に分ける習熟度別少人数指導を取り入れ，学年の教師と少人数担当の教師が，それぞれ集団を指導する。

（２）年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ　確かな学力をはぐくむ指導のあり方 －基礎・基本を重視した指導を通して－ ○　研究の見通し 算数，国語を取り上げて一斉指導と習熟度別指導を組み合わせ，コース別に応じた教材で指導することにより，確かな学力を身に付けることができる。 ○　研究の内容・方法 ①　単元において指導の流れの基本型を明らかにし，一斉指導と習熟度別指導を適切に配置する。 ②　コース別のねらいと学習内容，評価規準を明確にし，教材の工夫をする。 ③　コース別に分ける際の「個人カルテ」の内容やコース決定の仕方を検討する。 ④　学習内容が身に付いたかどうかの評価のあり方を明らかにする。 ⑤　説明，広報を行うとともに，学校評価や外部評価を行い，課題を次年度にどのように生かすか検討する。

平成16年度	○　テーマ　確かな学力をはぐくむ指導のあり方 －基礎・基本を重視した指導を通して－ ○　研究の見通し １５年度の研究の成果と反省を生かし，算数，国語において一斉指導の後，習熟度別指導を配置し，コースに応じた教材の開発，コース別学習のねらいが達成できたか授業評価を行うことにより，確かな学力を身に付けることができる。 ○　研究の内容・方法 ①　単元における指導の流れの基本型に基づく授業実践を行い，一斉指導と習熟度別指導の内容や方法，授業形態等を明らかにする。 ②　コース別のねらいに応じた教材をさらに工夫するとともに，活用の仕方を検討する。 ③　「個人カルテ」の見直しを行い，コース選択の適切な方法を検討する。 ④　授業評価を行って，習熟度に応じた指導のあり方を検討し授業改善に役立てる。 ⑤　２年間の研究成果と課題を明らかにし，学力向上の方途を提起する。

（３）研究推進体制



全体協議会及び研修会では，算数，国語の外部講師を招へいし指導，助言を受ける。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

少人数指導は，一人一人に目が届き，個の実態を詳細にわたって把握することができた。また，習熟の程度がそろっているので，授業が充実し深まる。習熟の程度に応じて，発展的な学習や具体物を使った指導，繰り返しの指導などができ，より個に応じた指導が可能となった。さらに，コース別に使用する教材の検討会を開いたり，外部講師の飯島・宇佐美両先生から授業診断をしていただいたりしたことは，各教師の指導方法が開かれ，互いの指導方法の改善や指導力向上につながった。次に児童側として，「３つのコースに分けたので人数が減り，分からないところを聞きやすくなった」「自分に合ったペースで勉強できるので分かりやすくやる気が出た」「算数や国語が楽しい」「自分と同じぐらいの仲間なので話もよく分かり安心して発表できる」などの反応が出された。

２．今後の課題

①　３コースに分ける前までの評価と分けた場合の評価のかかわりと評価規準。
②　希望が集中したときの集団の分け方とその対応。
③　単元の途中から，習熟度別小集団に移行するか，あるいは単元を通して習熟度別小集団でいくかなど，単元の特性を捉えた年間計画の立案。
④　算数、国語とも担任外の教師が担当した事例があり，配慮する必要がある。
⑤　習熟度別少人数指導について保護者は，賛成６０％・反対１０％であった。賛成でも，差別感，集団の固定化などに心配の声があるので取り組みの様子を知らせていく。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

単元の途中まで一斉指導を行い，その後，習熟度別によるコース学習に移行している。そのため，一斉指導後に小テストを行って理解や習熟の程度を調べ，さらにコース別学習が終了した時点でテストを行って結果を比較し，学力が身に付いたか判定している。また，学校評価や児童・保護者の反応など外部評価も取り入れて，習熟度別少人数指導が充実するよう努めている。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・　１５年度研究集録を作成し，市内全小・中・養護学校に配布し，指導の参考に供する。（平成１６年３月刊行）
・　１６年度については，公開授業・研究報告会を開催するとともに研究集録を配布して，全市に研究を発表する。（平成１６年１１月５日　１３時４５分）
・　市外からの学校訪問の際には，成果や問題点を詳しく具体的に説明している。（平成１６年２月２７日 東京都小学校長訪問）

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　■　１５年度からの新規校　□　１４年度からの継続校

【学校規模】　□　６学級以下　□　７～９学級
■　１３～１８学級　□　１９～２７学級
□　２５学級以上

【指導体制】　■　少人数指導　□　Ｔ．Ｔによる指導
■　一部教科担任制　□　その他

【研究教科】　■　国語　□　社会　■　算数　□　理科
□　生活　□　音楽　□　図画工作　□　家庭
□　体育　□　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無